

# 香取遺産

vol.131

鶴崎城跡と星宮神社

「主郭跡に鎮座する  
妙見信仰の社」

やしろ

鶴崎城跡は、佐原地区鶴崎に残る中世の城跡です。利根川に注ぐ大須賀川を望む台地に築かれました。

城跡は南北約520m、東西約350mの範囲に、4つの郭があります。南側の先端部分が主郭(第Ⅰ郭)です。その北側に第Ⅱ郭・第Ⅲ郭が続き、第Ⅲ郭の東側に第Ⅳ郭があります。

主郭は、三方に腰郭が巡り、第Ⅱ郭との間には二重の空堀が切られ、土塁が築かれています。第Ⅱ郭から第Ⅳ郭も、それぞれ空堀で区画されています。

この地域は、中世には大戸荘に含まれ、国分氏の領地であったことは分かっていますが、城跡に関する伝承などは残されていません。そのため、築城年代などは不明です。しかし、有力な在地豪族の国分氏あるいは大須賀氏による城跡であると考えてよいでしょう。

ここで、城跡の変遷を知る手掛かりとして、小字名を見てみましょう。主郭には「タテ」、第Ⅲ郭には「新タテ」の小字名が残っています。このことから、元は主郭のみの単郭構造の城であったものが、16世紀中頃以降に複郭構造の城に発展したものと考えられています。

現在の城跡は、第Ⅲ郭・第Ⅳ郭を除き良好な状態で保存されています。主郭跡には畑が広が



所在地  
香取市鶴崎

り、その一角に、地元で妙見様と呼ばれ親しまれている星宮神社が鎮座しています。境内は旧西坂神社の境内地で、今より約200年前に末社を本宮として奉祀したと伝えられています。祭神は天之御中主神で、明治43年に新タテ、つまり第Ⅲ郭跡地から天神様である菅原道真公を招き合祀し、今日に至っています。

現在の社殿は、平成3年11月2日に氏子諸氏の寄進により改築されたものです。その構造は、向拝がつく一間社流れ造りで、屋根は銅板葺きです。向拝には龍、墓股には九曜星と牡丹が彫刻されています。

妙見様は、千葉氏が守護神として仰いでいた神です。その妙見信仰の社が、今も城の主郭跡に鎮座し、地元の人々から崇敬を集めていることに、何か感慨深いものを感じます。

生涯学習課 ☎1224



①鶴崎城跡遠景(南から) ②星宮神社